

## 第1回胎内市立中学校再編検討委員会 会議録

1 開催日時 令和5年10月23日（月） 午後2時から午後3時30分

2 開催場所 胎内市産業文化会館 会議室

3 議 題 胎内市立中学校の再編等についての情報交換

4 公開・非公開の区分 公開

5 出席者

委員 長	近 孝道
副委員 長	塚野 陽介
委 員	濱中 力也
委 員	丹後 直子
委 員	山田 せい子
委 員	久保 俊幸
委 員	佐藤 光
委 員	松原 利弘
委 員	富樫 新一
委 員	河内 理助
委 員	佐藤 直文
委 員	齋藤 聡
委 員	久世 俊介
委 員	西村 礼子
委 員	上山 夏奈
委 員	菅原 美穂
委 員	中村 彩

教育長	中澤 毅
学校教育課長	丹後 幹彦
管理指導主事	池田 裕之
指導主事	山沢 正仁
指導主事	中村 祐一
学校教育係長	横内 和幸
学校教育係主任	菅澤 真人

## 6 会議資料の名称

- 資料1 胎内市立中学校再編検討委員会設置要綱
- 資料2 胎内市立中学校再編検討委員会委員名簿
- 資料3 胎内市立小中学校の適正規模等に関することについて（答申）
- 資料4 中学校区別生徒数推移見込
- 資料5 胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会の答申内容と今後の方針
- 資料6 今後の予定（案）

## 7 傍聴人の数 2人

## 8 会議の概要

---

### (1) 開会

#### ○学校教育課長（丹後）

本日はご多用のところ、お集まりいただきありがとうございます。

本検討委員会の会議は、胎内市附属機関等の会議の公開等に関する基準に基づき、原則として公開することとしております。ただ今から、第1回胎内市立中学校再編検討委員会を開催します。委員会設置要綱第6条第2項の規定により、本日、出席者が過半数を超えておりますので、会議は成立しますことをご報告申し上げます。それでは開会にあたり、胎内市教育委員会 教育長 中澤毅が挨拶申し上げます。

### (2) 教育長あいさつ

#### ○教育長（中澤）

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中ご参集いただき心より感謝申し上げます。また、当委員会の委員につきましても快く引き受けていただき、心より感謝申し上げます。

さて、本日は、皆様との意見交換の時間を可能な限り増やしたいと思っておりますので、予定を変更し、あいさつと趣旨説明を一緒に申し上げたいと思っておりますので、お許しいただきたいと思っております。

皆様も既にご存じのとおり、全国の大半の市町村において大きな課題となっております児童生徒の減少などによる学校の在り方について、胎内市においても十分な検討を行い、今後の方向性を示していかなければならない時期に来ていると考えております。それを示すにあたり市の子どもたちにとって、より望ましい教育環境はどうあれば良いかについて、令和2年12月から胎内市立小中学校の在り方検討委員会を立ち上げ、地域や保護者、学校運営協議

会、学校長などの代表と学識経験者の方から7回の協議、検討を重ねていただき、令和4年4月に答申を提出していただきました。その答申を踏まえて、市教育委員会は今後の方向性を示すという約束をさせていただいておりますので、この度、その方向性を提案させていただいたわけであります。その内容の詳細については、この後、担当から説明させていただきますが、私の方からその中で特に申し上げたいことは、答申において市の中学生にとってより望ましい教育環境のひとつ、適正規模というものがありますが、それは、この答申ではクラス替えが可能な1学年2学級以上を目安とすること、そして、1学年2学級が実現できない場合でも1学級20人以上となることが望ましいとし、さらに今後、1学級20人を大きく下回る状況が続き、少子化に伴う生徒数の減少が見過ごせない状況が予想される場合、統合を含めた学校の在り方を検討するタイミングを逸することなく速やかに対応することという答申を受けたわけです。ご存じのように既に市内4中学校のうち3中学校では1学年が1学級となっており、この答申が提出されて暫くした後に公表されたかなり先々の胎内市の出生数からすると令和14年度以降、複数の中学校で1学級20人を大きく下回る状況が続くことが予想されることがわかりました。令和14年度と言えば、10年を切っており、まさにこれは速やかに対応しなければならないという、答申で示されている状況と認識し、この度、統合を含めた学校の在り方を皆様方と検討させていただきたいと思った次第であります。

つきましては、今回、各中学校区の幼・保・小・中学校の保護者の代表、各学校の学校運営協議会の代表、各地区の区長の代表、4中学校の校長先生、学識経験者の方々と前回の検討委員会よりさらに幅広い立場の方々からお集まりいただきました。前回の検討委員会では、あくまでも統合しない場合、統合しないで小中一貫型小中学校の場合、統合する場合という3つを念頭に置いた議論であったわけですが、今回は、もちろん統合在りきではないものの、市教育委員会の方向性の提案を念頭に置き、絞った議論をしていただきたいと思います。ただし、今回は前回の検討委員会のような答申を提出するという性格のものではなく、あくまでも答申を踏まえて市教育委員会の示した提案について、それぞれの立場で出来るだけ多くのご意見をいただき、これを基に市教育委員会が方向性をしっかりと固めたうえで市の中学生の望ましい教育環境を整えるべく、さらに具体的に準備作業を進めていきたいと思っております。ですから、今回は皆様をお一人お一人から、実直なご意見をいただく事が第一ですので、5、6名のグループでじっくり意見交換していただく時間を毎回設けさせていただきたいと思っております。会の進め方につきましては、本日の資料6で提案させていただいておりますが、大筋は前回の答申等を踏まえた市教育委員会の方針の提案について説明の後、各

グループに分かれて質問や意見を中心に話し合いをしていただきます。各グループの進行役に市教育委員会の指導主事を配置し、質問等にその場で答えられることは答えますが、時間を要することは次回に回答させていただきます。

なお、後半には学識経験者の濱中先生から豊富な知識と経験をもとにご助言いただくことにしております。そして、この後選出していただく正副委員長と事務局で、本日の会議後に次回の意見交換のテーマ等を決定し、事前に皆様にお知らせするという流れで進めさせていただきたいと考えております。概ね2カ月に1回程度、計4、5回の実施を予定しております。なお、会議録については、後に公開したいと考えておりますので、ご了承いただければ幸いです。各地域の事情は様々異なると思います。また、子育てのご経験についても、それぞれの思い、考えが異なるところがあると思いますが、市の中学生にとってより良い教育環境がどうあれば良いか一緒に考えていただければありがたいと思っておりますので、忌憚のない意見をよろしくお願いいたしまして、私のあいさつ、趣旨説明とさせていただきます。それでは、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

○学校教育課長（丹後）

ただいまの趣旨説明につきましてのご質問等は、後ほど担当からより詳しい説明があり、その後にお時間を設けますので、その際により詳しくお願いいたします。

---

(3) 委嘱状の交付

○学校教育課長（丹後）

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

続きまして、委嘱状の交付を行います。本来であれば教育長から委員の皆様、お一人お一人に委嘱状をお渡しすべきところですが、時間の都合上、代表して濱中力也様に教育長から委嘱状をお受け取りいただきたいと思います。

<中澤教育長から濱中委員へ委嘱状交付>

○学校教育課長（丹後）

ありがとうございました。それでは皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

---

(4) 自己紹介

○学校教育課長（丹後）

続きまして、自己紹介を皆様をお願いしたいと思います。まずは濱中様から名簿順をお願いいたします。

<自己紹介>

ありがとうございました。この他に本日欠席となっております黒川地区区長会長の今井和彦様、築地小学校PTA会長の佐久間竜太様の2名の方がいらっしゃいますので、よろしくをお願いいたします。

---

(5) 正副委員長の選任

○学校教育課長（丹後）

続きまして、正副委員長の選出に移ります。

第5条第1項の規定に基づき、本委員会には、委員長及び副委員長を置くこととし、委員の互選により定めることとなっております。正副委員長の選出をお願いしたいと存じます。

いかがでしょうか。

それでは、事務局から提案させていただいて、よろしいでしょうか。

委員長には近孝道委員、副委員長には塚野陽介委員を提案します。ご承認いただける方は拍手をお願いします。

<拍手多数>

拍手多数と認めますので、委員長には近孝道委員、副委員長には塚野陽介委員が承認されました。それでは委員長、副委員長はお席への移動をお願いいたします。

<正副委員長、席へ移動>

○学校教育課長（丹後）

それでは、ここからの進行は委員長をお願いいたします。

○委員長（近）

この度、委員長を仰せつかりました近孝道と申します。不慣れではございますが、何卒よろしく願いいたします。席に座らせていただきます。

---

(6) 胎内市立中学校の再編等についての情報交換

○委員長（近）

それでは、胎内市立中学校の再編等についての情報交換を始めさせていただきます。初めに胎内市立中学校の適正規模等に関する検討委員会による答申内容と胎内市立中学校再編に関する市の基本方針の説明を事務局よりお願いいたします。

<事務局 指導主事(山沢)による資料5の説明>

○委員長（近）

ありがとうございました。ここで質問の時間を取らせていただこうと思います。教育長の趣旨説明、事務局の説明に対して質問のある方は挙手をお願いいたします。

○委員長（近）

ございませんでしょうか。

<なし>

それでは、中学校の再編に関する基本方針について、3つのグループに分かれ情報交換を行います。教育長と事務局の基本方針等の説明に対するお考えを率直にお話してください。情報交換の内容から次回以降の意見交換のテーマを決めていきます。各グループの進行は市教育委員会の指導主事が行います。時間は3時10分までです。

では、皆様よろしく願いいたします。

<A、B、C各グループでの情報交換>

○委員長（近）

それでは、各グループでの情報交換が終了いたしました。各グループの指導主事は情報交換の内容を発表していただきたいと思います。

初めにAグループから発表をお願いいたします。

○指導主事（山沢）

Aグループは6名でグループ協議をしましたが、6名とも統合には賛成であるという意見をいただきました。

主な意見の1点目は場所についてです。洪水などの被害がないようハザードマップ等から安全な場所を選んでほしいこと。また、スクールバスの台数が多くなるので、バスが通れる道路、バスが置ける広さ、利便性、これらを十分検討したうえで場所を決めていただきたいということでした。

2点目、小規模校、大規模校の両方から大勢の中学生が集まるので、この場合に不登校など生徒指導対応、きめ細かな対応が必要であり、そのためにも、生徒数に対して職員数の見込み、どのような手厚い対応ができるのかを知りたいという意見をいただきました。その他、一つの教科に複数の先生がいることから授業の質、教科指導の質、部活動の対応、これらが劇的に変わるのではないかというところ。

それから小規模校から現在、中学校から高校に進んだ場合、人数の多さに面喰ったりとか、小規模校の中だと人間関係が変わらず、逆に悩んだままだということから、中学校で一旦、大規模校になり、そして高校に進むと、ピンチのようだけれども、2回のチャンスがあるのではないかというような建設的な話でまとまりました。

最後に地域への説明を十分にして理解いただくことが大切なのではないかという意見をいただきました。以上です。

○委員長（近）

ありがとうございました。それでは、Bグループ、お願いします。

○管理指導主事（池田）

Bグループは、最初に3つの中学校の再編のパターンについて、簡単にどう考えるかというところから話が始まりました。子どもがいないという現実はどうしようもないということで、皆さん統合に賛成という話になりました。ただ、統合という状況になった時に中条地区に人が集まる。そうすると周辺の若者たちがどんどんいなくなってしまい周辺の過疎化がどんどん進んでしまうという問題が生じます。これは既に現実になっており、幼稚園の保護者には小学校の入学を見越して、既に入学する前に大きな学校、中心部の大きな学校のある学区に移転しようとする保護者の方がいるようです。保護者の方々は先々を見越し、統合について真剣に考えているという方が非常に多いという話がありました。そして、正式に統合という事が決まっているのであれば、それを明確に示してもらうことで結果的に周辺部の皆様の移転を防

ぐことができ、10年ということだが、このまま、そこに住んでいただける。ただ、そうした時もやはり問題があり、子どもたちが通うときに、あまりにも遠いと学校の周辺部へ移転することが考えられる。これを解くカギとして大事になってくるのがスクールバスです。バスの運行によってどのように中学校に進学するのかが考えることができ、答申によると通学時間が概ね1時間ということですが、1時間となると中学生が学校生活を送る上でかなり負担になるのではないかという意見がありました。したがってバスの運行、それから周辺部の皆様の移転の問題など、これら諸々を含めた対策が必要だろうと、そうすると大きな話になりますが、市の計画へ影響を及ぼしてくるのではないかという意見がありました。

そして、他には地区から子どもがいなくなることで、子ども会の活動ができない。それで答申の中で胎内市をひとつの地区として子どもたちが学校行事、地区の行事等に参加できるようになるのではないかという意見もありましたが、なかなかそれは難しいことではないかという意見もありました。どこに中学校を建てるかという話においては、ふれすぽ胎内周辺の一択でした。

ということで、胎内市の子どもたちを育てるのに適した環境にしていく必要等を考えて中学校の再編、統合を考えていかなければならないという話になりました。以上です。

#### ○委員長（近）

ありがとうございました。それではCグループ、お願いいたします。

#### ○指導主事（中村）

Cグループでは、基本的にこの具体的な数値を見る限り、かなり教育活動状況が厳しいだろうということで、もう統合は仕方ないだろうという共通理解を図らせて頂きました。築地中学校では、本来であれば今年1年生が29人入学する予定でしたが、市外、市内の他の中学校に行ってしまう20人になり、工夫をしないと運動会も赤白、男女に分けることも難しいという状況で、これが加速度的に進むとなかなか教育活動も難しいという意見が出ました。

また、部活動の部分でなかなか難しいのではないのかと、部活動の地域移行が統廃合のひとつのきっかけになってくれることも考えられるのではないかという意見もありました。

また、スクールバスでの送り迎えは良いのだが6km以内の子どもたちが心配で、5～6kmの子どもたちは当然、保護者の方々が送り迎えをするのではないかという意見がありました。どこの立地になるのかわからないですが、自転車で5、6km乗るのは女の子を持つ親として心配であるという部分も含めて、立地条件あるいはスクールバスだけでなく、登下校のことにつ



いてもきめ細かく考えていかなければならない。市全体で、防災関係も含めて巻き込んでいかなければならないという意見がありました。

また、先ほどBグループの意見にもありましたが、今の自分たちの地域から、市全体を考えて、オール胎内で物事を考えていく必要性を啓発していく必要があるのではないかという意見がありました。

また、高校へ行く時の壁、中学校1年生になる時に小さな小学校から行く時に壁にならなければいいという話もありました。これについては、今、中条中学校は2つの小学校から来ている。それが5つになっても子どもたちは仲良くやっていけるのではないかという意見も出ました。ただ、やはり小規模校から行くのは少しハードルが高いのではないかということと、切磋琢磨の機会を必要とする中ではありますが、この数字を見るとスピード感をもって進めなければならぬのではないかという意見がありました。

Cグループは具体的に立地条件とか、スクールバスの運行とか細かい部分には入りませんでした。次回以降で、また積極的に意見を交わしていきたいということで終わりました。以上、Cグループの報告を終わります。

#### ○委員長（近）

どうもありがとうございました。情報交換会に忌憚のない意見をいただきまして大変ありがとうございました。それでは、ここで学識経験者として参加していただいております。濱中委員よりお話をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

#### ○委員（濱中）

私もそうですが、多くの皆さんが中学校の思い出がある中で、その学校がなくなっていく、そのことについて寂しさを感じている方が全国に大勢いらっしゃると思います。

新潟県の中学校は、平成に入ってから60校以上がなくなっています。統廃合によって学校がどんどんなくなる状況が今続いているわけです。小学校と中学校の統廃合は基本的に考え方が違うと私は思っています。小学校がなくなってしまうのは地域との繋がりが切れてしまうので、やはり地域の皆様にとってもなくなってしまうのはとても寂しいと思っています。中学校は少し違って社会とのつながり、地域というより社会との繋がりが切れてしまします。もうひとつ高校との繋がりも考えなくてはいけないので、中学校の統廃合は色々なことを考えた上で思い切って前に出なくてはならない時があるのではないのかなと思っています。

これまでの胎内市の取組について、先ほど中澤教育長さんからお聞きしました。先ほど60校の統廃合が進みましたという話をしましたが、どこに校舎

を持ってくるのか、校歌をどうするのか、通学方法をどうするのかということで紛糾し、何年も何年も時間がかかり、統廃合を終えた後も何かしこりが残っているような、そういう地域がたくさんあります。しかし、胎内市は令和2年から、諮問からスタートして丁寧に教育環境の整備を見通しながら、今日もまたこうして色々な方の意見を聞く機会を設けていることについて素晴らしいと思います。統合は丸だが地域への丁寧な説明が必要ですし、その通りだと思ったのは、小規模の小学校から、大規模の中学校に入ってくる子どもたちが不安にならないような、そうした接続の仕方を考えなくてはならない、そんな意見がありました。通学路についても、いろんな意見が出ていました。スクールバスのお話もありましたし、結局、保護者の送迎になってしまい保護者の負担も増えるのではないかと、そんな心配の声もありました。こういった声をこの会議の中で共有していき、少しでも不安が減らせたいなと思っています。その一方で、胎内市がどんな学校を作ろうとしているのかということもとても大事だと思います。どこに造ろうかというのも大事なのですが、どういう教育理念があって、どういう子どもたちが胎内市から育って世界に羽ばたいていくのか、そういうことまで考えて不安を減らすだけではなく、造るからには、まとめるからには、そういう思いでこの会議がさらに進んでいくと、リスクを減らす部分と伸び代をさらに伸ばすことを、胎内市の強みを生かしながらできれば良いと思っています。胎内市は比較的コンパクトです。そこが強みです。強みを生かした学校再編の取組を進めていくことが一番近道ではないかと思っています。ありがとうございました。

○委員長（近）

濱中委員、大変ありがとうございました。

---

(7) その他

○委員長（近）

それでは、次回以降の予定について説明を事務局の方からお願いいたします。

○学校教育課長（丹後）

それでは、次回以降の予定の説明をさせていただきます。資料6になりますが、冒頭の教育長の説明にもございましたが、当委員会は今回を含めまして概ね4回を予定しております。第2回、第3回の意見交換のテーマについては、正副委員と事務局で協議して決めさせていただきたいと思っております。また、第2回、第3回で意見交換が終わらない場合、第4回も意見

交換の場とし、その後もう1回開催が必要かどうかも併せて検討してまいります。次の第2回は現在、12月を予定しております。詳しい日程等は内容が決まり次第、皆様にお知らせいたしますので、よろしくお願いいたします。以上です。

---

(8) 閉会

○委員長（近）

それでは、最後に閉会のあいさつといたしまして、塚野副委員長、お願いいたします。

○副委員長（塚野）

副委員長の塚野でございます。皆様、本日はご多忙の中、第1回胎内市立中学校再編検討委員会にご出席いただきましてありがとうございます。本日、こうして様々な立場と地域の皆様から、いろいろな目線で非常に活発な意見をいただきまして、私も様々なことを考えることができ、非常に有意義な会だったと思います。皆様に協議いただいた意見を近委員長と事務局と協議いたしまして次回第2回の開催のテーマを決めさせていただき、また皆様にお集まりいただきたいと思います。このように地域の皆様、保護者の皆様と行政が本気で話し合っ力を合わせていくことで、ひとつの胎内市として、これからの子どもたちの明るい未来を作っていくことにつながると思いますので、次回もご出席と屈託のないご意見を是非とも頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、閉会のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

○委員長（近）

それでは、以上で第1回胎内市立中学校再編検討委員会を終了いたします。ご出席いただきました皆様、大変ありがとうございました。